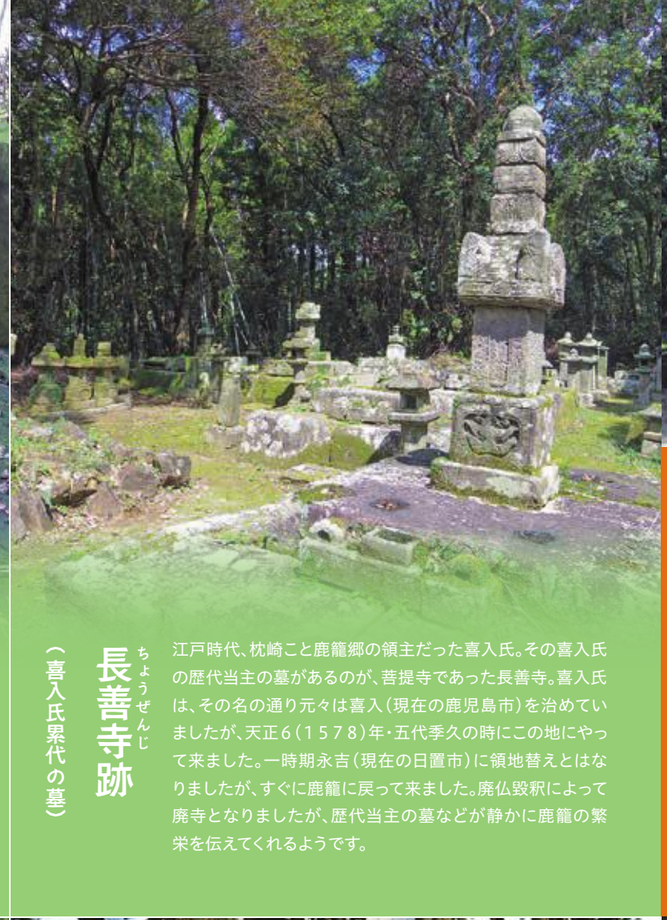
枕崎の古刹めぐり

歴史を語るよ墓がすごい

すぐにイメージできない関係から枕崎らしさを紐解いてみよう。
実は墓をめぐっても枕崎の歴史や履歴がわかってくるのです。

図書どん墓（ずしょどんばか）

としょではなくずしょと呼びます。図書殿とは宮之城島津氏のことを指します。かつて鹿籠郷の地頭職にあった島津忠長が宮之城島津氏の当主でもあったことが由来しているのでしょうか。でも島津忠長の墓は、領地である宮之城の宗功寺にあるのです。では、この墓はだれのもの？ひとつの説として、島津忠長の父である尚久が加世田で亡くなっており、その尚久の室の墓ではないかというものがあります。はっきりはしませんが、宮之城と枕崎の関係を示す珍しい墓といえます。



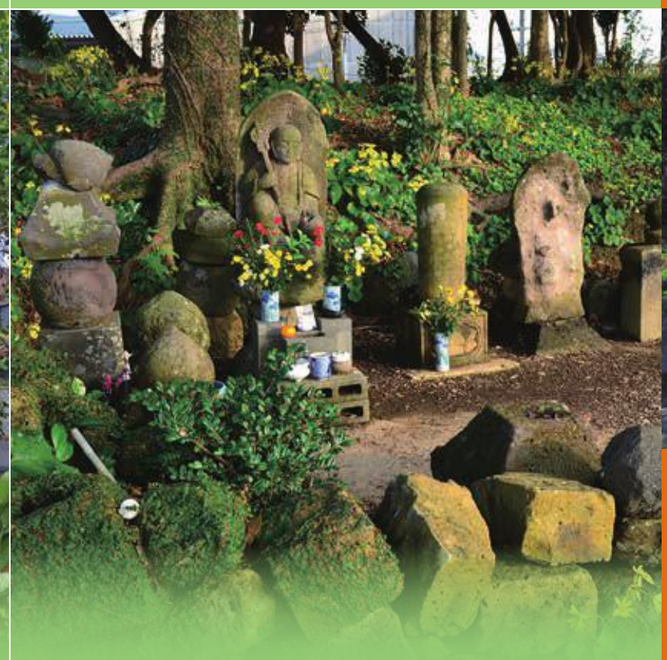
長善寺跡（ちょうぜんじあと）

（喜入氏累代の墓）

江戸時代、枕崎こと鹿籠郷の領主だった喜入氏。その喜入氏の歴代当主の墓があるのが、菩提寺であった長善寺。喜入氏は、その名の通り元々は喜入（現在の鹿児島市）を治めていましたが、天正６（１５７８）年・五代季久の時にこの地にやって来ました。一時期永吉（現在の日置市）に領地替えとはなりましたが、すぐに鹿籠に戻って来ました。廃仏毀釈によって廃寺となりましたが、歴代当主の墓などが静かに鹿籠の繁栄を伝えてくれるようです。

九十九人溺死の碑

枕崎のカツオ漁の歴史にとって忘れてはならない出来事が明治２８（１８９５）年７月２４日の「黒島流れ」です。この事件は、枕崎から南方面の東シナ海に浮かぶ黒島付近でカツオ船が遭難し、枕崎だけでも４１１名の犠牲者が出ました。この碑は塩屋・田畑などの小湊地区の漁師９９名の方々を弔うもので、海難の悲劇を伝えています。



岩崎寺（いわさきでら）

坊津で隆盛を極めた一乗院の末寺で、宗派は真言宗で山号は硫黄山。枕崎では海岸近くの立地から、硫黄の産出する東シナ海に見える硫黄島との関係も語られそうな寺である。残念ながら廃仏毀釈で廃寺となったが、文禄３（１５９４）年に坊津に流されてきた左大臣の近衛信輔も訪れたとされている名刹であった。その際に詠まれた鹿籠八景の歌にも岩崎寺は登場する。現在はわずかに残る石塔などが当時を偲ばせてくれる。

お詣りにいこうよ 枕崎の神様

今嶽神社（いまだけ）

〔住所〕別府字下山１９６０２

境内でまず驚かされるのは森。楠やシイなどの大木が社殿や境内、背後の山に連なる姿は神聖な空間にいることを感じさせてくれます。御祭神は宣化天皇。伝説によると西国行幸の際に枕崎の板敷の浜に到着し、御殿を建設し、この地で亡くなったとされている。始めは背後の今嶽の山頂に祭られていたという。この今嶽も美しいかたちをしているので両方楽しんでほしい。

南方神社（みなみかた）

〔住所〕鹿篭麓町３９８

御祭神は建御名方命（たけみなかたのみこと）と事代主命（ことよぬしのみこと）で、明治５年以前までは諏訪神社と呼ばれていました。現在は、建御名方神（たけみなかたのかみ）と八阪刀売神（やさかとめのかみ）が主祭神として祭られています。それだけに参道の鳥居が二基並列していているのも特徴。境内には淡島神社、菅原神社、愛宕神社など６社があり、ここだけでたくさんの神様をお参りできます。

＊南方神社と天御中主神社はコンカツ神社（p５参照）。南方神社では、コンカツの絵馬の奉納料を納めることができます。

コンカツスタンプラリーのパワースポットです。

大山祇神社（おおやまづみ）

〔住所〕金山町６４０

地域は金山という地名の通り、江戸時代には鹿篭金山という薩摩藩を代表する金山がありました。それだけに山の神である大山祇神を祭る神社は、金山関係者を含めて信仰を集めてきました。境内には金山の発見者である有川夢宅の墓や夢宅堂と呼ばれる石像が祭られた祠もあります。神社には有川夢宅が奉納した神楽用の面もあるといいます。

⇐　祠に祀られている有川夢宅の石像

天御中主神社（あめのみなかぬし）

（妙見神社）

〔住所〕寿町２５９

御祭神は天御中主命で、創建年代は白河天皇の時代である永保の頃（1081～１０８３年）といわれ、鹿篭では一番古くから信仰されてきた神社のひとつです。御祭神は、天の中央を示す北極星や北斗七星を表す神とされ、宇宙と関係の深い神社といえます。例祭には太鼓踊りなどが奉納されて地域の人々によって大切に守られています。

コンカツスタンプラリーのパワースポットです。

ちゃんサネさんのコースは
ディープ過ぎる！

枕崎は初めてのあなたにおすすめのコース

① 駅周辺コースも楽しいよ

枕崎駅
ハートの石を探してみよう（P12）
↓
南溟館
アートな気分上昇（P8）
↓
枕崎神社
枕崎らしい「漁霊供養碑」もあります
↓
コッペ東京堂 OR **ヴェルディ**
おやつのバンゲット！（P4）
↓
アートストリート
アートな気分さらに上昇（P8）
↓
枕崎駅

② 少し足を伸ばしてコース

枕崎駅
↓
折口市場 & 枕崎マーメイド & ど根性アコウの木
（詳しくはP15-16を）
↓
松之尾公園
原耕の胸像もあります。
そして遺跡もあります。
↓
地場センター OR お魚センター OR かつお公社
（詳しくはP7を）
↓
明治蔵
焼酎の歴史を知り試飲もできます（P7）
↓
アートストリート
↓
枕崎駅

↓火之神公園平和祈念展望台

枕崎のまち歩きをするなら

枕崎駅前観光案内所
☎0993-78-3500
にお問い合わせください。

枕崎のまちの魅力を枕崎のことを大好きな方々がご案内してくれます。まっすぐなように見えてまっすぐでない道も多い街なかを楽しい会話とともに意外な発見を求めて歩いてみませんか。

枕崎っぽい風景ですね～

7 海を眺めたところでまた住宅街へ。

隅欠けされた角の家。わかる？

お散歩も最終段階。枕崎の家並みで面白いのは街路の角。角の家はほとんどが「隅欠け」されていて、歩行者にも車にも景観にも配慮しているよう。欠けた部分に枕崎の人々のやさしさがあるような。かんすいをたっぷり使用した麺がうまかったラーメン屋の話なども聞きながら住宅街を歩けば、またまたかつお節工場が突然現れたりとやっぱり枕崎っぽいぞ。

6 かつて料亭が立ち並んでいた海岸沿い

旭町・新町付近は、大中小のかつお節工場が並びます。そこにはかつての石切り場跡や海水プールの跡もあって、ぼーっとするにもすこぶるよか。

石切り場跡のなごり

もうちょっと、歩いてみよう♪

遠くに立神岩。近くにグランド。このグランドはちゃんサネさんが枕崎小学校に通っていた頃には、学校の運動会を開催していた場所とのこと。また、枕崎神社の社殿と鳥居も登場。漁師さんたちにとって大切な場所のひとつがここ。周辺には鰹の魚霊供養碑などもあります。注目したいのは煉瓦の屋根を持つ不思議な空間。ここは枕崎神社の戦前の旧社祠で、ここにはかつて海岸近くに並んでいた料亭などで働く女性たちの御霊も合祀されていたそうで。仲良くしていた漁師などが、遠くから働きに来て亡くなった女性たちのことを偲んで時折り香を手向けたそうです。

5 広いグランドと枕崎神社。そこには･･･。

4 水道施設と頂上展望、さらに森。

水道施設が頂上にありました。ここは昔は今枕崎を訪れる船乗りさんと地元の女性たちが仲良くしていた場所とのこと。学生のちゃんサネさんはよく来ていたそうです。何をしに来ていたのかは本人に聞いてください。ここまで来ると市街地だけでなく反対の権現山方面もよく見えてきます。森も案外木々が多く、プチ森林浴もできるよ。

ここでクールダウン♪

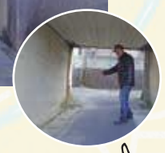
ちゃんサネと行く

枕崎市街地まち歩きMAP
ちゃんサネってどんなひと

枕崎出身のマルチタレント。全国のテレビや映画で活躍し、平成17年に枕崎に帰ってきました。鹿児島でもコマーシャルやテレビ、ラジオに多数出演しながらトランペットやギターも演奏するすごい人なのであります。

街なか散歩

1 まずは枕崎駅から出発。駅近くのガード下。



やっぱり前の駅には思い出もたくさんあったみたいですが、その名残りを感じさせてくれるのがガード下。この狭さと低さが絶妙とのことですが、このガード下は街と片平山を結ぶ近道でもあります。

見よ、この絶妙な空間!!

2 片平山への坂道

中途半端な距離と傾斜の坂道を登ります。ちょっとずつ街並みがいい具合に眼下に広がってくるのが素敵。でも坂道は坂道。ちゃんサネさんも息が荒くなってきました。ちなみに若い頃はそうでもなかったとのこと。

3 登ったのに下るんですか。しかもさらに急坂を。

いい具合に登ったのにもったいないほどに坂道を降りる途中には、かつてお風呂屋があったという思い出話がプラス。その後かなり過酷な階段をのぼると斜面の植え込みに枕崎の市章が登場。ちゃんサネさんはここの市章が好きみたい。登りきったら上着を脱ぎました。

誰が言ったか知らないが、
枕崎の巷で噂の世間遺産をご紹介！

枕崎の世間遺産

セクスィー！

枕崎マーメイド

マーメイド・人魚さんといえば、華奢で人目を避けるように過ごしていて追いかければ逃げていってしまう…そんなイメージを持っていた方は驚くでしょう。たくましいのです。枕崎のかつての港を背に胸をぐっとそらし髪をおさえている、見よ！といわんばかりポージングは、そう、すごく力強いのです。かつては枕崎駅前にあったというマーメイドさん。旧港建設の際に請け負った業者さんが寄贈された石膏製。今は海の近くにもどって潮風をあびていらっしゃいます。

がんばってのぼりましょう♪

岩戸権現

御祭神など不明。金鉱石の産出する岩戸山の山腹に位置する岩戸権現は、登るのはとても困難。それだけにたどり着くと、プチ修業とでもいえる体験ができます。巨大な岩の間に祀られていて、反対側のわずかに開ける空間から海と空を望むことができます。漁業の町である枕崎にはかつて大きな料亭や遊郭もありました。そこで働く女性たちは信仰深い方々が多く、お参りする光景があったと古老が語ってくれました。

招魂塚

明治10年の西南戦争に際して、枕崎でも武士層の居住地域である麓地区から数多く従軍しました。特に鹿児島市街地郊外の郡元を流れる新川沿いで、政府軍と激戦になり多くの死傷者を出しました。その戦いは激戦地の名前から「涙橋の戦い」と呼ばれ、現地には涙橋血戦と刻まれた石碑が建立されています。いかに激戦であったかを物語るものです。招魂塚は、その際亡くなった人々を弔うものであります。

五代様が係わっていたとは！

金山というだけでもパワースポットでしょう。

ど根性のあこうの木

建物の改修により失われる可能性大な今必見の現象。記録と意味も込めてここに掲載することにしました。あこうの葉が太陽に向かって広がるのは屋上。根っこは地上！。つまり枝は雨どいとパイプを伝って地上から屋上に伸びているというもの。なんという生命力でしょうか。まさにど根性あふれるあこうの木なのであります。

すごーい。

鹿籠金山跡

江戸時代には薩摩の三金山のひとつで全国から採金に従事しに来ていました。また、朝ドラ「あさが来た」にも登場した五代友厚も経営に関わる金山でした。当時を偲ばせる坑口や金山関係の建物などが地域に点在しています。金山を発見した有川夢宅の墓を拝んで金運に授かってみてはいかがでしょう。

もしものときは、ここにかけこみましょう。

港町公衆便所

かつては隣接地に警察の建物があり便所が単体で目立つ存在ではなかったといいますが、現在では個と孤が融合して素敵に海と一体化しております。四か国語対応なところも漁港枕崎の特徴といえましょう。

冒険心をくすぐります

木口屋

傾斜地に石をきっちり積み上げて成型した石垣も美しい木口屋。ここにある「自然花」は、親子で自然に囲まれた昔ながらの建物でゆったりとした時間を過ごしてほしいと活動する子育て支援のNPO。ここの活動の一環としてアート造形は、集落のさまざまな場所にあります。ツリーハウスもその一つ。

ロマンチック～都会では見られません

電照菊

昭和33年からの歴史を持つ電照菊の産地。「枕崎の夜景は？」と尋ねると「電照菊」と返事が返ってくるほどなじみの深い、でも不思議な台地の光景です。

先人達の知恵

へやっがま

へやっがまとは、海岸で拾い集められたサンゴを焼いて石灰にし、しっくいなどの材料にするための大型の窯。ここにはかつて何度も何度も煙を立ち上らせたであろうへやっがまが存在感たっぷりにその姿を横たわらせています。今はもう使用されていませんが、自然の力を借りることの上手だった時代の大切な大切な記憶です。

スナックもあるんです。

懐かしさあふれてる～

折口市場

市場のある折口町の地名は、まさに港の玄関口であることを表現するかのような「降り口」に由来しているとか。それだけに物資が海から集積する場でもあり、人々が集う場でもあります。戦後に誕生した折口市場は、鹿児島県内ではほどんど見られなくなったなつかしい市場の風景をたたえています。現在の建物は二代目。天井の木組みは二代目の風格でしょうか。営業店舗は少なくなりましたが、健在であります。

やたらとデッカイです。

岩戸公園のがじゅまる

海を望む場所にあるがじゅまるは圧巻。さわると木のエネルギーをしっかりともらえそうな存在感があります。岩戸地区は現在の金鉱石の採掘をしている地域だけに木と気の両方にあふれていることを象徴しているかのようであります。